

組織学会通信

No.99

2026. 9. 20

【大会関係】

2026 年度組織学会研究発表大会報告

2026 年度組織学会研究発表大会は、関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）において、松本雄一先生を実行委員長として、2026 年 6 月 20 日（土）、21 日（日）に開催されました。399 名もの会員の皆様に事前登録いただき、会場には 400 名を超える皆様にお越しいただきまして、盛況のうちに終了することができました。一時的に強い雨に見舞われましたが、開催校実行委員会の先生方、事務局、学生スタッフ等、関係者の皆様のご尽力により、大きなトラブルなく実施することができました。心より御礼申し上げます。

当日は、87 の研究報告を 6 会場にて実施いたしました。一日目の午前は大学院生セッション、午後から研究発表セッション、二日目はお昼のランチョンセッションを挟んで、終日、研究発表セッションが行われました。大学院生セッションおよび研究発表セッションは、いずれも大会委員会委員の先生方の司会によって滞りなく進められました。中には研究発表セッションの報告者も務められた先生もいらっしゃいましたが、皆様快く司会を引き受けてくださいましたこと、改めて感謝いたします。

一日目午前の大学院生セッションでは、21 の研究報告が行われました。報告者の近年の傾向として、社会人院生の比率が高まっているようです。今回、報告者のお子様帯同に関する対応策の必要性も提起されましたので、今後の課題として検討してまいりたいと思います。そして午後は研究発表セッションが行われました。その後には例年、高宮賞授賞式ならびに受賞者セッションがあるのですが、今回は大変残念なことながら該当者がおらず、開催はいたしませんでした。

そして総会の後、開催校によって研究交流セッションが開催されました。これは、研究者相互の交流を促すことを目的とした企画です。美味しい焼き菓子などの軽食とソフトドリンクを開催校がご準備くださり、大変和やかな雰囲気の中、全国からの参加者が交流する貴重な機会となりました。

二日目は午前、午後とも研究発表セッションが行われました。お昼の時間帯にはランチョンセッション「共働きのリアル」が開催され、浦野充洋先生（関西学院大学）司会のもと、麓仁美先生（立命館大学）、貴島耕平先生（関西学院大学）を交え、活発な議論が行われました。そして 15 時 45 分に全プログラムを無事に終了することができました。

二日間の長丁場でしたが、受付で、また各会場で、管理運営を行ってくださった関西学院大学実行委員会の先生方、学生スタッフの皆様には改めて心より御礼申し上げます。

次に、大会委員会の活動について御報告いたします。大会委員会では、2026 年 3 月 27 日の締め切りまでに応募された原稿に対して審査を行い、発表の可否を決定いたしました。本大会での研究報告の採択数は 87 件、不採択数は 15 件（形式不備などにより）で、採択率は 85.29% となり例年よりも低くなりました。

例年 90% を超える採択率でしたが、今年度不採択が増加した主な原因は「年会費未払い」でした。報告者すべてが組織学会正会員であること、そして年会費滞納者は応募不可である旨、応募資格に明記されております。特に研究発表セッションでは、大会報告に応募した会員は年会費を支払っていても、報告者として名前を連ねている他の会員が年会費未納の場合も不採択となりますので、大会報告に応募の際には、今一度皆様の年会費の支払い状況をご確認いただきたくお願いいたします（なお、ご自身の会費支払い状況など会員情報を確認するには、組織学会のサイト「会員情報変更」→「会員マイページ」にお入りください）。

一方、規定のフォーマットを守らないことによる不採択数は減少しております。とはいえ、「全体的にフォーマットを改変してしまっている」「Reference の形式やフォントが規定のものと異なる」などは依然ございますので、応募の際には執筆規程、テンプレート、チェックリストを改めてご確認ください。

さて、大会委員会は例年通り、大学院生セッションで審査を行い、「ドクトラル・コンソーシアム」（略称「ドクコン」）参加メンバーの選出を行いました。ドクコンは、次世代の若手研究者育成を目指す取り組みで、年次大会前日に開催されます。また、このドクコン参加の権利を得た方々は「研究発表大会優秀報告者」でもあります。ドクコン参加候補者（兼 研究発表大会優秀報告者）を決定するべく、研究発表大会における大学院生セッションでの報告の中から大会委員会が評価・選出を行い、今年度は、以下の 4 名の大学院生を選出いたしました。誠にありがとうございます。

[2027 年度年次大会ドクコン参加候補者・2026 年度研究発表大会優秀報告者]

慶應義塾大学大学院 上田 彬正さん

神戸大学大学院 堂西 晴香さん

龍谷大学大学院 松岡 正さん

慶應義塾大学大学院 吉井 弘和さん

※五十音順

最後になりますが、大会を開催してくださる大学の先生方、また大会委員会委員の先生方には改めて御礼を申し上げます。また大会委員会の活動をご支援くださる網倉会長をはじめとする理事・評議員の先生方、そして何より常に的確なアドバイスを下さる事務局お二人の献身なくして大会の企画・運営は困難です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

***2027 年度組織学会年次大会（一橋大学）のお知らせ**

2027 年度組織学会年次大会は、2026 年 10 月 24 日（土）・25 日（日）に、一橋大学千代田キャンパスにて開催されます。本大会の統一テーマは「多極化する世界経済に挑む経営と組織／Management and Organizations Facing the Challenges of a Multipolar Global Economy」です。2 つの基調講演（日本製鉄株式会社代表取締役会長 橋本英二氏、シンガポール国立大学教授 Kenneth G. Huang 氏）や会長講演の他、開催校セッション、編集委員会セッション、大会委員会セッションなどが企画されております。各セッションについては、年次大会のサイトにて大会プログラムが掲載されておりますのでご確認いただきたいと思います。さらには国際委員会主催の国際セッションも同時に開催されます。多様な企画が揃っておりますので、ぜひ多くの方々にご参加くださいますよう心よりお願い申し上げます。

組織学会大会委員会担当理事 西野 和美

2026 年度組織学会研究発表大会 開催校挨拶

2026 年度組織学会研究発表大会は、2026 年 6 月 20 日（土）および 21 日（日）の 2 日間にわたり、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにおいて開催されました。関西学院大学での組織学会全国大会開催は、実は初めてとなります。関学まで足を運んでいただけるのか心配しておりましたが、大会参加登録者数は 406 名に及び、大会実行委員一同、うれしい驚きでした。

本大会は、A 会場から F 会場までの 6 つの平行セッションを用意しました。大会初日の午前中は、大学院生セッションで 21 本の研究発表が、午後からは研究発表セッションとなり、2 日間で 66 本の研究報告がありました。いずれの会場においても、最新の研究成果発表に対し、参加者の皆様から多くの質問やコメントがあり、組織学会らしい活発な議論が展開されました。

総会終了後には、研究交流セッションが開催されました。参加者の共同研究につながる交流を目的とした本セッションは、約 200 名もの参加者で、会場は熱気に満ちていました。セッションの後は早速構築された交流関係に基づいて食事に向かう参加者の姿がみられました。

また、2 日目の昼休憩時には、ランチョンセッションが行われました。「共働きのリアル」と題した本セッションでは、登壇者の先生方の貴重な経験談が披露されました。現在共働きの環境にある方々ばかりでなく、将来のキャリアの参考にしようとする方々も多く、会場は参加者でいっぱいになり、意義深いセッションにすることができました。

会場となった西宮上ヶ原キャンパスは、よくも悪くも喧噪を離れた場所にあり、周囲に飲食店も少ないことから、会員の皆様には何かとご不便をおかけしましたが、多くの皆様にご参加いただき、大会を盛り上げていただいたことに感謝申し上げます。本大会は、関西学院大学初の組織学会開催ということで、大会実行委員一同、ずいぶん前から準備作業に取り組んで参りました。サッカーワールドカップ 2026 の最中、2 日目は日本戦があったにもかかわらず、学生スタッフも(参加者の前では)しっかり働いてくれました。

最後になりましたが、大会開催にあたりましては、学会役員の先生方、大会委員会の先生方、そして学会事務局の皆様には多大なるご支援・ご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2026 年度組織学会研究発表大会実行委員長 松本 雄一
実行委員会・開催校一同

【2】2027 年度組織学会年次大会のお知らせ

2027 年度組織学会年次大会を以下の通り開催いたしますので、会員の皆様には、是非ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

日 時：2026 年 10 月 24 日・25 日

開催校：一橋大学

開催場所：一橋大学千代田キャンパス・一橋講堂（学術総合センター2 階）他

本大会の統一テーマは、「多極化する世界経済に挑む経営と組織／Management and Organizations Facing the Challenges of a Multipolar Global Economy」です。

近年、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエルによるガザ侵攻、米国・イスラエルとイランの対立、日中関係の悪化をはじめ、国家間の摩擦は一段と深刻さを増しています。こうした状況のもと、国境を越えて事業を展開する企業を取り巻く経営環境は急速に複雑化しており、従来の延長線上にはない意思決定や組織対応が求められる局面が増えています。

本大会の統一テーマは、まさにこのような環境変化の中で、企業経営や組織はいかなる対応を取るべきなのかという問題意識に基づくものです。地政学リスクの高まり、経済安全保障の重視、国際分業体制の再編といった大きな構造変化は、企業戦略だけでなく、組織設計、人材マネジメント、さらにはガバナンスのあり方にも根本的な再考を迫っています。

こうした問題意識のもと、今大会のプログラムは、(1) 2 つの基調講演、(2) 8 つのテーマセッション（ランチョンセッションおよび編集委員会セッションを含む）、(3) 11 の国際セッション（英語による研究発表セッション）、(4) 会長講演、(5) 懇親会から構成されます。

第 1 の基調講演では、日本製鉄株式会社代表取締役会長兼 CEO の橋本英二氏にご登壇いただきます。「日本製鉄の経営改革と US スチール買収の教訓」と題し、国家間の複雑な政治・経済環境を乗り越えて US スチールの買収を実現した経験を踏まえ、大胆な戦略の実行によって社長就任から 2 年で日本製鉄を V 字回復へと導いた経営改革の要諦と、世界の鉄鋼メーカーへの復権に向けた挑戦について語っていただきます。

第 2 の基調講演では、シンガポール国立大学教授の Kenneth G. Huang 氏にご登壇いただきます。「Innovation Management in the Age of AI and Geopolitical Disruption」と題し、技術革新マネジメントに関する近年の研究を踏まえ、米国による対外制裁や外国投資・買収規制が強化される中で、企業が AI 技術やイノベーションをどのように導入し、戦略を形成しているのかについてご講演いただく予定です。

生成 AI に代表される急速な技術進歩は、従来の経営組織や人的資源管理の前提そのも

のを揺さぶりつつあります。このような大きな変化に直面する時代だからこそ、社会の潮流を俯瞰し、大局的な視点を提供する学術研究の価値は、ますます高まっていると考えます。同時に、学術研究が現実の経営や組織運営にどのように貢献できるのか、その意義と可能性が改めて問われている時期でもあります。

テーマセッションには、国際経営、AI、観光、スタートアップなど、今日的な課題を扱うセッションが含まれています。また、ランチョンセッションを含め、経営学研究や研究コミュニティのあり方について深く考えるセッションも用意されています。歴史的に「実学」の拠点として発展してきた一橋大学で開催される本大会では、実務と学術研究の架橋についても積極的に議論する予定です。

さらに、2025年度の年次大会から開始された国際セッションについても、2つのセッションを並行して、合計33件の発表が予定されており、活発な議論が交わされることを期待しています。昨年就任された網倉会長には、本大会で改めてご講演いただきます。

大会初日の夕方には、会員の皆様の交流の場として、同じ会場で懇親会を開催いたします。また、両日とも、ご希望に応じてお弁当をご用意いたします。千代田キャンパス周辺の飲食店は週末には休業していることが多いため、お弁当のご注文をおすすめいたします。

開催場所は東京の都心に位置しており、国立キャンパスのような伝統的な学術空間とは趣を異にするかもしれません。その一方で、東京駅から至近という高い利便性を活かし、密度の高い議論と活発な交流が生まれる場にしたいと考えております。

多くの会員の皆様のご参加を、心よりお待ち申し上げます。

2027年度組織学会年次大会 実行委員会

実行委員長 青島 矢一

実行委員 吉岡 徹 高田 直樹

【3】2027年度組織学会研究発表大会のお知らせ

2027年度組織学会研究発表大会は、2027年6月に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催される予定です。学内規定の関係により、具体的な開催日程は現時点で確定できておりませんが、2027年2月にはお知らせできる予定です。

本学会の研究発表大会を慶應義塾大学三田キャンパスで開催するのは、今回が初めてとなります。歴史ある舞台に学会員の皆様をお迎えできることを大変光栄に存じております。

研究発表大会は、院生セッションならびに研究発表セッションともに自由論題による発表が中心となります。大会の日程確定後に報告公募のご案内を致しますので、どうぞ奮って研究報告にご応募いただきますようお願い申し上げます。

参加者の皆様にご満足いただけるような研究発表大会となるよう、実行委員会一同、鋭意努力して参ります。どうぞご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

2027 年度組織学会研究発表大会（慶應義塾大学）実行委員会一同

【4】ドクトラル・コンソーシアムについて

6 月の研究発表大会の大学院生セッションで報告した方の中から、大会委員会が選んだ大学院生を、その年の秋の年次大会時に開催する「ドクトラル・コンソーシアム」（ドクコン）にご招待いたします。大会委員会の選考基準は「組織科学に投稿して採択されるような論文になることが期待される報告」です。大会委員会で選ばれた方には、研究発表大会終了直後に「インビテーション・レター」をお送りいたします。ドクコンはその年の年次大会前日にほぼ丸一日かけて開催されますので、ドクコンご参加の意思確認をいたします。ドクコン参加者の当該年次大会の参加費は免除します。

ドクコンは、いわゆる Paper Development Session です。ドクコン参加者は、全員が『組織科学』仕様の(投稿規定に則った)論文を持ち寄り、オーガナイザーの指導の下、互いに切磋琢磨することを求められます。ドクコン提出論文は、「組織学会ドクトラル・コンソーシアム査読付報告論文」と明記できるようになりますが、それに満足することなく、ドクコン終了後できるだけ速やかに修正し、『組織科学』等に投稿されることを強く希望いたします。

そして、ドクコン開催日の夜（あるいは翌日の夜）には、ドクコン参加者のご希望にできるだけ沿えるよう、数人のシニアの学会員をお呼びして、懇親会も開かれます。くつろいだ雰囲気の中で、先輩研究者とのカジュアルな対話を通して、良い研究とはどのようなものか、研究を行う上での手がかりや悩み、研究者としてのあり方などを考える贅沢な時間をお楽しみください。

大会自体がコロナ前の対面開催に回帰したことを受けて、ドクコンについても、対面開催へと戻すことにいたしました。オンラインではできなかった、若手研究者とオーガナイザーの先生方とのアイディアと熱量の交換に期待したいと思います。

すでにご存知かと思いますが、一昨年度の大会より、ドクコン参加者を「組織学会研究発表大会優秀報告者」と称することが決まっております。ドクコンに参加することで研究をブラッシュアップする権利を得ると同時に、参加した時点で、大会で報告を行った大学院生報告者の中でも、特に優れた報告者と学会に認められた、ということの意味します。学会として賞状等を授与するということは致しませんが、参加者の皆様は、自身が「優秀報告者」であることを履歴書等にお書きいただくことが可能になります。ドクコンに関心

を持たれた大学院生の会員は、まずは大学院生セッションでの報告に奮ってご応募ください。それがドクコン「インビテーション・レター」への最初の一步となります。

大会委員会

【 2026 年度 組織学会高宮賞 】

2026 年度組織学会高宮賞は、以下の通り決定いたしました。

【著書部門】

受賞者：該当なし

著書名：該当なし

【論文部門】

受賞者：該当なし

論文名：該当なし

2026 年度組織学会高宮賞 審査報告

審査委員長	武石 彰
担当評議員	新宅 純二郎
	高橋 伸夫
	山田 幸三

2026 年度の組織学会高宮賞の審査を高宮賞審査委員会で開催いたしました。

誠に残念ながら、著書部門、論文部門ともに、該当作なし、という結果となりました。両部門とも該当作なしというのは、高宮賞の歴史の中で二回目のこととなります。以下、審査の経緯についてご報告いたします。

今回審査対象となりましたのは、著書部門が二点、論文部門が三点でした。審査は私を含めて 10 名の審査委員で担当いたしました。審査委員の皆様に対象作を事前に読んでいただいた上で、3 月 23 日午後に対面の審査委員会を開催いたしました。担当評議員立ち会いのもと、審査を行い、以下のような評価が示されました。

論文の方では、データの取り方や分析のデザイン、着眼点などで優れたものがありました。ただ、実証的な論拠に弱さが残っており、理論的な検討にも課題が残っているところ

がありました。

著書の方では、二点とも、従来の組織科学研究が十分な関心を寄せてこなかった重要な問題を取り上げ、多くの努力を注いでオリジナルのデータセットを整え、綿密な分析を加えたもので、力作であるとの評価が寄せられました。ただ、全体として、それらのデータや分析が設定した目的に対して正面から向き合っているかという点で疑問が残りました。

こうした評価を踏まえ、丁寧かつ慎重に審議を重ねた末に、両部門とも受賞作なしとの結論に至りました。

組織学会にとって、高宮賞の発表は、本来、喜ばしく晴れやかな瞬間となるわけですが、本年度はそのような機会を持てず、審査委員会として大変残念に思います。優れた研究成果を表彰し、若手による組織科学研究を促し、支援することは、組織学会にとって重要な責務だと思います。組織学会では若手を対象とする CFP などを実施しておりますが、そうした取り組みを通じて、今後、多くの候補作が対象となり、コンスタントに受賞作が選ばれることを願っております。先ほど申し上げました通り、今回の候補となった論文、著書は、問題設定、問題意識、オリジナルデータの構築、綿密な分析といった点で優れた点があり、いずれも頼もしい、大きな可能性のある研究であると思いました。今回は残念な結果に終わりましたが、若手の皆様にそうした努力を続けていただき、そして、組織学会がそうした努力をさまざまな機会を通じて刺激し、支えることができれば、今後、多くの優れた受賞作が生まれることでしょう。

そのような期待を申し上げて、審査報告の結びとさせていただきます。なお、ここでお名前を申し上げられませんが、審査にご協力いただいた審査委員の皆様、お世話になった担当評議員、学会事務局の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

審査委員長 武石 彰

【新入会員紹介】

2026 年度(第 22 期)には、正会員 110 名、準会員（個人）39 名、準会員（団体）3 社が入会しました。また、準会員から正会員へ会員種別を変更した会員は 8 名、正会員から準会員への会員種別変更は、3 名でした。

【 総 務 関 係 】

【 1 】 年会費納入のお願い

当学会は 2026 年 9 月 1 日より 2027 年度（第 23 期）に入っております。年会費として正会員の方は 12,000 円、準会員・個人会員の方は 8,000 円のご納入をお願いいたします。

ご請求内容につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページにてご確認ください。

（会員管理システム（SMOOSY）：会員マイページのご案内）

会員マイページ URL：<https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

ログイン ID：ご登録済のメールアドレスをご入力ください。

パスワード：ご登録済のパスワードをご入力ください。

1. ゆうちょ銀行(郵便払込取扱票)および銀行振込の方

金額等をお確かめのうえ、支払い期限（2027 年 8 月 31 日）までにお支払い手続きをお願いいたします。

2. 銀行自動引落(口座振替)の方

2026 年 9 月 28 日にご指定の口座から振替いたしますので、お確かめください。

お支払い手数料は当方にて負担いたします。また、口座振替入金事務手続き後に SMOOSY より領収書発行が可能となります。こちらは手続き上の関係で確認までお時間を頂戴いたしますので、確認後に会員管理サイトに「入金」より領収書発行が可能になります。

3. 請求書をお申し込みいただいた方

年会費の請求書発行につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページより、随時発行可能でございます。

一部の方を除き 4 月に請求書の郵送はいたしませんので、ご自身で請求書発行をお願いいたします。

※一部会員には滞納や支払遅延がみられ、予算執行上の扱いや決算時の未払い会費処理等で、運営上の問題が発生しております。会員の皆様には事情をご理解いただき、何卒速やかなお支払いをお願い申し上げます。

【2】大会出席・会員総会委任状送付のお願い（オンライン会員総会の日程未決定）

2027 年度組織学会年次大会では、2026 年 10 月 24 日（土）に会員総会が開催されます。別途、オンラインにて会員総会の開催を予定しております。

組織学会の重要な議決機関です。また、今回の会員総会は、特定非営利活動法人としての総会も兼ねております。特定非営利活動法人の総会開催には正会員の 5 分の 1 以上の出席が必要とされております。正会員の皆様方には、是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

やむを得ずご欠席の場合には、学会ホームページより「委任状」をご提出くださいますようお願い申し上げます。ご欠席の可能性がある場合にも、委任状の提出をお願いいたします。委任状をお送りいただいた上で総会にご出席された場合、委任状の総数から出席人数を差し引きます。

2027 年度会員総会 電子委任状送付 URL：

<https://www.aaos.or.jp/contents/join/poa.php>

総会出席、ならびに委任状の送付は、すべての正会員の皆様の意向を確認するための措置です。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【2027 年度 若手学会員を対象とする研究支援について】

組織学会では、組織研究を活性化するために、若手学会員の英文論文の執筆・発表や共同研究等を奨励・促進する研究支援を、下記の通り実施します。

＝ 記 ＝

A) 英文論文の校正支援(1 件当たり 5 万円)

(1) 支援内容

- ① 組織科学英文年報や国際ジャーナルに英文論文を投稿する論文、国際コンファレンスや海外の学会で発表するフルペーパー(アブストラクトのみの場合は支援対象外)の英文校正費用を対象として、1 件当たり 5 万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 応募締切時において 40 歳未満の正会員が第一著者であることが必要です。
- ② 再応募も可能ですが、一度支援を受けた場合には、最低 2 年間は再応募できないものとします。

(3) 応募手続

- ① 応募者の連絡先や投稿先などを、規定のフォーマット(組織学会ホームページに掲載)により申請してください。
- ② すでに投稿済みの場合には、受理レター(プリントアウト・コピー等でも可)を添付してください。
- ③ 締切は年3回(12月・3月・6月)設けます。2027年度は、2026年12月4日(金)、2027年3月5日(金)、6月4日(金)を期日とします。
締切後の1ヵ月後を目途にお知らせいたします。
- ④ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。受付は締切日の17時までとします。

(4) 支援決定後の手続等

- ① 支援決定後に投稿する場合は、研究奨励費受領から1年以内に投稿することが望まれます。投稿後は、受理レター(プリントアウト・コピー等でも可)を組織学会に提出してください。
- ② 学術ジャーナル・学会予稿集などに採択され、掲載が決定した場合には、掲載論文に組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り(電子ファイルもしくはハードコピー3部)を組織学会事務局に提出してください。

B) 若手会員を中心とする共同研究(1件当たり10万円)

(1) 支援内容

- ① 代表者およびメンバーの半数以上が、応募締切時点で40歳未満の正会員である共同研究を対象として、1件当たり10万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 共同研究のメンバー全員が正会員で、代表者およびメンバーの半数以上が応募締切時点で40歳未満であることが必要です。
- ② メンバーの所属先は、複数の機関であることが望まれます。
- ③ 継続申請も可能ですが、原則として最長2年までとします。

(3) 応募手続

- ④ 参加メンバー氏名、研究テーマおよび内容等を、規定のフォーマット(組織学会ホームページに掲載)により申請してください。
- ⑤ 締切は年1回(3月)設けます。2027年度は、2027年3月12日(金)を期日とします。
- ⑥ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。

(4) 支援決定後の手続等

- ⑦ 研究グループは自らの責任において活動し、研究奨励費受領から1年以内に研究成果報告書を、組織学会事務局宛に提出してください。研究成果報告書は、組織学会ホームページで公開します。
- ⑧ 研究成果については、研究発表大会・年次大会などで発表することが望まれます。他学会等で研究成果を発表する際には、組織学会からの補助を受けている旨を明示してください。論文などとして学術誌等に掲載が決定した場合には、組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り（電子ファイルもしくはハードコピー3部）を組織学会事務局に提出してください。

【事務局より】

【1】銀行口座自動引落（口座振替）結果状況確認について

会費の銀行口座自動引落（口座振替）自動引落は、三菱UFJニコス株式会社(NICOS)の収納代行サービスを利用しております。そのため、内容確認のためにお時間をいただきますので、何卒ご了承ください。

【2】会員情報の登録変更について、（会員管理システム（SMOOSY）を使用）

会員管理システム（SMOOSY）を導入しております。会員の皆様におかれましては、会員データ登録内容（所属、住所、電話、FAX、メールアドレス等）に変更が生じた場合は、以下のURLより、会員情報の変更登録をお願いいたします。

（会員管理システム（SMOOSY）：会員マイページのご案内）

<https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

- ・ログインID：ご登録済のメールアドレスをご入力ください。
- ・パスワード：ご登録済のパスワードをご入力ください。

【3】大会開催前後の連絡について

年次大会・研究発表大会の開催（土・日）において、事務局員は会議運営および諸準備のため、前日の金曜から準備にあたっております。また恐縮ながら、翌月曜日は代休日となります。その間、事務局宛の電話・FAX・メールを確認することができません。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

なお、次の2027年度組織学会年次大会（一橋大学）は、準備の都合上、金曜日のご連絡はお受けすることができません。

組織学会通信 第 99 号

2026 年 9 月 20 日

発 行 特定非営利活動法人 組織学会
事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-2
三菱ビル 地下 1F 171 区外

TEL : 03-5220-2896

FAX : 03-5220-2968

URL : <https://www.aaos.or.jp>